

# 小さな群れ

カトリック美唄教会

2021年7月 No.290

2021年6月27日発行

主任司祭 ナルチゾ神父

暑くなったり肌寒くなったりする毎日が続いているこの頃ですが皆さんはお元気でお過ごしでしょうか。コロナウィルスが発生してからもう一年になりますが、私たちの普段の生活にずいぶん影響がありました。またこれからどうなるでしょうかと不安な気持ちをもっている人は少なくありません。

7月1日：

2008年11月24日、長崎で行われたペトロ岐部司祭と187殉教者の列福式から今年は13周年になります。この記念ではあらためて、殉教者たちの証しを思い、その息づかいを感じ、祈り、188人の列聖が実現するように願うものです。

ペトロ岐部と187殉教者は、1603年から1639年にかけて殉教した日本人である。日本各地を代表しており、社会的立場も司祭、武士、商人、家族、女性、障がいのある人、子どもと多岐にわたっている。188人のうち、司祭が4人、修道者1人、他の183人は信徒であり、徳川幕府時代の厳しい迫害にもかかわらず、いのちをささげることによって信仰を証した。

地域別にみて、人数が多いのは京都のヨハネ橋本太兵衛をはじめとする52名と、米沢のルイス甘糟右衛門ら53名です。また、生月の西一家、京都の橋本一家、加賀山・小笠原一族、島原の内堀一家は、家族が信仰のきずなで結ばれ、励まし合い、支えあって殉教していった。

188名の中で代表的な人物は、イエズス会の司祭、ペトロ岐部です。1587年、豊後に生まれた彼は、有馬にあるイエズス会のセミナリオに入ったが、1614年、禁教令によってマカオへ追放された。マカオでの養成が困難であったためローマへ出発し、そこで司祭となったが、帰路についたとき日本では迫害の嵐が吹き荒れていた。1639年、彼は江戸で逆さつるしの刑に処せられ、殉教した。

殉教者たちの信仰と愛を称えて、2008年11月24日、長崎市においてペトロ岐部と187殉教者の列福式が行われた。

日本の教会が、殉教者の血から生まれ、その上に立てられたことを思い起こし、現代社会の中で教会が自信と活気に満ちあふれて、福音を宣べ伝えるきっかけとなった。死をとおして、イエスの愛になった彼らの証は、どんなときもイエスの価値観を選び、それを証しすることの大切さを、わたしたちに教えてくれる。

では毎日ウィルスに感染しないように注意しながら、安全に一学期の終了に向って、そして夏休みが楽しい時期になるように願っています。



主任司祭 ナルチゾ神父

2021年7月 主日ミサ・平日のミサ 予定

美唄教会 小さな群れ  
2021年7月 No.290  
2021年6月27日発行

司祭のための祈り (p.26)

日	曜	ミサ		各種勉強会	会議・その他事項
		主日・祭日	時間		
2	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
4	日	年間第 14 主日	午前 11:00		
9	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
11	日	年間第 15 主日	午前 11:00		ミサ後 運営委員会
16	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
18	日	年間第 16 主日	午前 11:00		
21	水		午後 06:00	ロザリオの祈り	
23	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	
25	日	年間第 17 主日	午前 11:00		
30	金		午前 10:30	ミサ後聖書に親しむ	

《 平日のミサ 》 **金曜日のみ 午前 10:30** 2・9・16・23・30 日です  
《 聖書を親しむ 》 平日のミサ後、旧約聖書に親しんでみませんか。

霊名の祝日 (敬省略)		清掃当番	花 当番
1日	パトリック	菅野雄太郎	第2週 葛西・東 船野
3日	トマス	小川 昇 ジェイムズ・マッキングタイヤー	
6日	マリアゴレッティ	岡 由紀子	第4週 河野
11日	ベネデクト	河野二郎	
13日	ローザマリア	山本郁子	
16日	カルメル山マリア	谷 由美子	
26日	アンナ	菅野まり子 菅野 向日葵 洲之内京子	

【お知らせ】

◎8/15 慰霊祭追悼ミサ

砂川・滝川・美唄 共同墓地が7月中出来ます！

マンフレード神父

## 主の平和

カトリック教会の伝統的な祈り“十字架の道行き”は、十四留は主の葬りであり、十五留は主の復活が宣言されています。エルサレムの教会のイエス様のお墓は既に復活のシンボルであり、記念となっています。日本でも墓参りの心があり、お墓で人々は彼らの、家族や共同体の一致、出会えた事への感謝の心をあらわします。



砂川教会の大きな墓地にある大きな十字架とマリア様は、イエス様の死と復活の記念であると同時に、亡くなった人々は主と共に生きているという証であり、この地方美唄、砂川、滝川と大家族であって墓地は一つのシンボルなのです。

この度の新しい三教会合同墓完成にあたり、私たち滝川教会は、砂川教会に感謝し、あの十字架の下「主の死を思い、復活をたたえよう。主が来られるまで。」とごミサの中で共に祈ることができます。同時にその祈りは空知地方で亡くなられた方々への祈りでもあり、今も生きている人々と共に大地の恵み、労働の実りを感謝し、そのすべての祈りを祝福として響かせます。

